



令和7年度 朝日町立西五百川小学校だより

ポ プ ラ



第10号 令和8年2月16日

校長 清野 雅紀

雪とともに育つ子どもたち

朝日町は、雪の多い町です。冬季は、登下校や安全確保など、生活の中で大変なこともたくさんあります。雪国で暮らすことを、つい「大変だ」「不便だ」と感じてしまうこともあるかもしれません。しかし、先日、こんな話を聞きました。雪国で育ち、進学や就職で雪の少ない土地に移り住んだ若者が、友人との会話の中でスキーの話題になったそうです。その時、「自分は多少なりともスキーができる」「楽しく滑った経験がある」と話すことができ、とても誇らしい気持ちになったということです。雪国で育った経験は、後になってから、その人の自信やアイデンティティになることがあります。雪とともに暮らし、冬を楽しみ、乗り越えてきた経験は、雪国以外では簡単に得られるものではありません。一方で、保護者の皆様にとりまして、スキー教室などの行事については、用具の準備にかかる経済的な負担や、自分はスキーが得意ではないので…」というお気持ちから、心配や迷いを感じておられる方もいらっしゃると思います。学校としても、そのお気持ちを大切に受け止めています。

ここで少し、私自身のことを書かせていただきます。私はこれまで、朝日町に生まれ、山形県で育ち、長くスキーに親しんできました。スキーが得意だと言われることもありますが、決して最初から上手だったわけではありません。何度も転び、寒さに震え、上達は遅々として進まず「やんだぐなった」こともありました。それでも、雪の中で体を動かす楽しさや、楽しさを分かち合う仲間、少しずつできるようになる喜びが、スキーの楽しみになっていきました。だからこそ、スキーは「上手な人だけのもの」ではなく、「雪国で育つ子どもたちすべてに開かれた体験」だと感じています。スキーや雪遊びは、競争や技能の向上だけが目的ではありません。転んでも大丈夫、思うように滑れなくとも大丈夫、友達と声を掛け合い、同じ雪の中で挑戦すること自体が、大切な学びです。「雪って楽しい」「冬も好き」と感じる心を育てることが、何よりも大切だと考えています。朝日町は、厳しい冬を、人と人のつながりで乗り越えてきた町です。雪の中で助け合い、声を掛け合う経験は、子どもたちの心に「支え合う力」や「困難に向き合う姿勢」を育ててくれます。スキーなどのウィンタースポーツの体験も、その延長線上にあるものだと考えています。

子どもたちが将来、朝日町を離れることがあったとしても、「ぼくは雪国で育った」「私はスキーや冬の楽しさを知っ



ている」と胸を張って語れる大人になってほしいと思います。そして、大人になってからも、ふとスキーを楽しむような人生を送ってくれたらうれしく思います。

朝日町は、雪国ならではの環境を大切に、スキーや雪に親しむ体験を大事にしています。朝日町では、小学校のスキー教室2回分のリフト券代、インストラクターの派遣費用を助成しています。さらに、スキー場までの交通費（スクールバス）は無料、個人負担は昼食代のみです。このような手厚い支援のおかげで、スキー教室・スキー記録会が実施できているというわけです。近隣の市町では、これまで行っていたスキー教室が実施できなくなっています。今年度まで実施していた西村山地区の小学校でも、来年度以降も継続して実施するとしているところは、朝日町だけと聞いています。町内に Asahi 自然観スキー場があり、スキーを体験するには大変恵まれた環境にある子どもたちは、本当に幸せだなと思います。

朝日町の自然と季節は、子どもたちにとっての貴重な財産です。この町で、この西五百川地区に育つことに誇りをもち、地域を大切に思う心を、これからも西五百川小学校は育んでいきたいと考えています。



やっぱり楽しい！ スキー教室

1月23日(金)と1月30日(金)に、スキー教室を行いました。23日は、1～4年生までの参加です。保護者の方々、スキースクールの先生に丁寧に教えていただくと、みるみる上手になっていきました。そして、30日は全学年の参加で行いました。1～4年生までは、ポールをセットして記録を取りました。どの子どもも、巧みにスキーを操作し、ポールをくぐり抜け滑っていました。実にレベルが高いです。西五百川小学校区にスキー場があるからこそでしょう。そして、保護者や地域の方々のスキーについてのご協力があった子どもたちの姿です。スキー指導やスキー運搬にご協力くださった保護者の方々に、心から感謝いたします。お忙しい中、子どもたちのためにご協力いただき、誠にありがとうございました。

朝日町スキー記録会 入賞おめでとう

2月4日(水)にAsahi自然観スキー場で、天候に恵まれ朝日町小学校スキー記録会が行われました。本校の子どもたちは、これまでの練習の成果を発揮し、その実力を発揮しました。



5年男子	1位
5年女子	1位
〃	2位
〃	3位
	4位
	5位

感謝！ 宗生文庫 44年目

「宗生文庫」とは、水口にお住まいだった故阿部宗一郎さん（朝日町名誉町民で株式会社朝日相扶の創業者）から寄贈された図書のことです。阿部さんが小学生のころは、町に本屋がなかったため、読みたい本を自由に読むことができませんでした。それで、朝日町の子どもたちには「たくさんの本を自由に好きなだけ読んでもらいたい。自分の一冊を持つ喜びと、その本を元に交流することの楽しさを伝えたい。そして、本との出会いを通して人間性豊かな人に育ってほしい。」という阿部さんの温かな思いと、故郷の子どもたちへの深い愛情から生まれた文庫です。昭和 54 年から西五百川小への寄贈が始まりました。今年で 44 回目になりました。平成 28 年度からは、宮宿小・大谷小にも寄贈されることになり、それ以降町内全ての小学生に本がプレゼントされています。今年度も、1 学期に児童が本を選び、プレゼントの本が届きました。そして、子どもたちは自分が選んだ本を交換しながら本を読み合っています。



感謝！ 最上一平さんの最新著書

最上一平さんは、朝日町上郷出身の児童文学作家です。毎年、町内の 3 つの小学校にご著書を寄贈いただいています。今年度は、『ガマ千びき イワナ千びき』『麦ちゃんのめがね』『山の神の使い』という三冊のご著書を寄贈いただきました。さっそく私も読んでみました。

西五百川小は今年度、「挑戦」というテーマで学校教育活動を進めてまいりました。本校の『挑戦』に、『ガマ千びき イワナ千びき』の、主人公のイワナが何度も滝を登ることに挑戦する姿が重なり、心に響くものがありました。

『麦ちゃんのめがね』は、小学 3 年生の女の子が、目が見えにくくなったことでめがねを作ります。「新しいめがねを学校でかけるのはどうかな…」と不安に思っていたが、めがねをかけてみると世界がくっきり見えはじめ、クラスメイトや日常の出来事を、これまでとは違う視点でやさしく見つめられるようになる話です。初めて学校でめがねをかけるまでの不安や、めがねをかけたことで世界の見え方が変わったことなどから、新しい一歩を踏み出す勇気をもらえます。

『山の神の使い』は、朝日町の風景が手に取るように描かれ、読みながら、身体感覚として



の懐かしさが込み上げてきます。全編に自然の美しさや季節の移り変わり、家族の営みが描かれ、「そうそう、こういうことだったよね」という郷愁に満たされる思いでした。皆様にも、ご一読をおすすめします。

